

日本映画衛星放送株式会社・第27回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成24年5月8日(火)15時~16時
2. 開催場所 : 東京都港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー東館15F
日本映画衛星放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 9名 / 出席者委員数 9名
出席委員(順不同、敬称略): 鳥居美砂・田保橋淳・坂井保之・菊地 実・石上三登志・
曾根和子・西 正・鈴木嘉一・川本三郎
放送事業者側出席者氏名: 代表取締役社長 杉田成道
常務取締役 酒井 彰
編成制作部部长 宮川朋之
編成制作部担当部長 澤 尚志
番審担当 堤 靖芳、清水 明(記)、碓井恭子

4. 議題(1) 審議事項

「日本映画専門チャンネル」で放送されている、
「新・13の顔を持つ男 その1 伊丹十三『父と子の物語』」、
「市川崑 Film Book」、「新藤兼人の100年」の3オリジナル番組について

(2) 報告事項

「時代劇専門チャンネル」7~8月改編について

5. 議題(1) 概要

BS日本映画専門チャンネルがスタートしてほぼ2カ月。その間に特集と連動したオリジナル番組を制作・放送してきた。ここでその番組内容を審議し、いただいたご意見を参考に、今後のオリジナル番組の更なる質的向上を目指していきたい。

6. 審議内容

<番審委員意見>

- ・3本ともしっかりと作られている。特集に合わせた企画なので、映画に詳しくない人へのナビゲーションとして良い。内容的には映画に詳しい人向けの番組だが、それで良い。ただ『新・13の顔を持つ男』のタイトルは疑問。
- ・伊丹十三の番組が一番面白かった。視点が新しい。伊丹を知らない人は、「こういう人か」となるし、知っている人にも発見があり、両方満足させられる。新藤兼人の番組は、駆け足の新藤兼人のパブリシティフィルムみたい。もっと新しい発見を意識して欲しい。
- ・伊丹十三のタイトルは、『多羅尾伴内』か?という感じ。ただ万作を描いている箇所は、面白かった。新藤兼人の番組は、入門編として問題ない。市川崑の番組は時間が短く、やや物足りない。今後は、あまり知られていない監督についても作って欲しい。
- ・3人ともよく知らないけど名前は知っている、映画ファン以外はそんな感じだと思う。私は新藤兼人の番組に感動した。伊丹十三の番組は、ナレーションが映画通向きで嫌味。

市川崑の番組は、監督の粋で洒脱なイメージとダブって良かった。

- ・伊丹十三の番組は勉強になった。新藤兼人の番組で気になったのが、戦争体験が映画制作のベースと言いながら、その原点と影響がよくわからないこと。市川崑の番組は、視覚的な市川崑語録として面白く思えた。
- ・三大映画人の人間性に迫る好オリジナル番組だと感心した。また番宣としても、大変良質。良質な番宣は、良質の番組の存在を強くし、良質の視聴者を集める。今回の番組は、良い意味での「本当の番宣」だと感じた。
- ・この番組を見て、映画を見てくれるかがポイント。その目的に合致しているという意味で、3本とも良い。ターゲットをどこに置くか、悩みながら取り組んで欲しい。
- ・今回の番組は、この御三方を取り上げる時は、この辺りから入るという内容。けれども、だからつまらない。真面目過ぎる。作り手の器用さ、上手さをもっと反映すべき。

< 事業者回答 >

- ・新藤監督が100歳ということで、歩みを振り返るオリジナル番組を作った。確かに物足りない部分もあり、深く対象に迫って、ファンを納得させられなかった反省がある。
- ・『新・13の顔を持つ男』は、5年前の『13の顔を持つ男 伊丹十三の軌跡』という番組のタイトルを、引き継いだ。前作が、ATP(社団法人全日本テレビ番組製作社連盟)で、CSチャンネルとして初めて賞をいただいており、そのタイトルにこだわった。
- ・番組を制作するに当って、番宣という意識はあまりない。映画紹介という意識。それがベースで、どのくらい深い番組紹介を作るかというところで、様々なレベルが混在している。ただ、本当に深い番組が作り切れていない、というご指摘はその通りだと思う。
- ・単なる解説を違う形にしたというだけで、確かに食い足りない。ターゲットをどこに定めるかが大変難しいのと、社員が大変皆真面目でこういう番組になっている。もう少し好き勝手に面白がってやると、もっと色合いが違う番組になると思う。

7. 議題(2) 報告事項

- ・時代劇専門チャンネルは、15年目に突入する7月1日から、CS110度上でハイビジョン放送を開始、編成を一新する。全作品ハイビジョン、日本語字幕付き。作品数も倍増。より多くの方々に時代劇を見ていただくべく、「より美しく!」、「よりバラエティ豊かに!」、「よりサービス豊かに!」作品を提供していく。具体的な改編のポイントは、「10作品・連続アワー」が、「朝の連続アワー」「午後の連続アワー」「深夜の連続アワー」の3ブロックに分かれる。1日に見られるエピソード数が2倍になり、月の初登場作品は大幅増。

毎週日曜の人気企画「池波正太郎アワー」がリニューアル。朝・夕・晩の1日3回、それぞれ別のエピソードを放送し、1日に見られるエピソード数が3倍になる。

毎週土曜よる9時に新企画が登場。「10週連続企画 里見浩太郎 超大作時代劇(仮)」。
週末の夜にゆっくり大作時代劇を堪能していただきたい。

8. その他参考事項: 次回番組審議委員会は、2012年7月10日開催。

(以上)